

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900318		
法人名	有限会社ケアサポート岡井		
事業所名	グループホームこころ		
所在地	徳島県三好郡東みよし町足代1131		
自己評価作成日	令和3年1月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は敷地周辺の田畑で米や野菜を栽培しており、生育の移り変わりや収穫を間近で楽しむことができ、収穫した旬の野菜を使用した献立をたくさん取り入れ、日々の食事作りに取り入れている。また、家庭的な雰囲気の中で利用者一人一人の残存能力に応じた役割や暮らし方をモットーに「その人らしさ」を大切に介護サービスを提供している。地域の自治会や消防団などと交流を持つことで地域の中で安心して生活を送ることができている。今年度は新型コロナウイルス対策により安全・安心できる環境作り、そして協力病院との連携により訪問診療を充実させ医療と連携し健康管理に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型サービスの意義をふまえ、職員間で考えた理念を掲げている。日ごろから利用者のその人らしさを尊重し、思いやりをもった支援に努めている。地域住民に向けた認知症サポーター養成講座を開催したり、利用者とともに地域のサロンに参加したりして、地域との交流を図っている。感染症(コロナ等)の流行下においても、近隣住民から野菜の差し入れを受けるなどして、交流を続けている。受診の際に自宅近くを通ったり、家族や友人と電話のやりとりをしたりして、馴染みの関係継続や利用者の不安を取り除くための取り組みを行っている。食事は、利用者の希望を聞き、ユニットごとに献立を作成し、事業所の田畑で栽培した米や野菜、差し入れ等を利用して調理している。職員と利用者がともに会話を楽しみながら食事をとり、家庭的な雰囲気となっている。協力医療機関と連携し、定期的な訪問診療や訪問看護、緊急時の対応など、利用者や家族等が安心できるような医療の体制を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に全職員で理念を唱和している。また、ミーティングや申し送り時には必ず理念に触れ、確認し合うようにしている。	事業所では、地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ、職員間で話しあい、作成した理念を掲げている。ミーティングや日ごろの会話のなかで、理念をふり返っている。新人職員にも理念について伝え、全職員で理念にそった支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては町内会に加入しているが、今年度はコロナ感染の観点から地域行事には参加できていない。管理者は消防団に所属し地域の情報や協力は得やすく、地域の方からの野菜のお裾分けなどのなじみの関係は築けている。	事業所は、町内会に加入し、地域の祭りや小学校の運動会などに参加している。事業所に地域住民を招き、認知症サポーター養成講座を開催するなど、地域貢献にも取り組んでいる。感染症(コロナ等)の流行下においては、近隣住民から野菜の差し入れを受けるなどして、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は町内会の方を招き認知症サポーター養成講座を開催するなどしたが、今年度は開催できなかった。コロナが終息したら地域で開催しているサロン等に積極的に参加したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染の観点により昨年1月開催以降開催できていない。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、町内会長や民生委員、町担当者、近隣のグループホーム管理者等の出席を得ている。事業所の活動報告を行い、出席者から情報や意見を得るなどして、サービスの質の向上に活かしている。感染症の流行に伴い、今年度の開催は見合わせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染対策等町の担当者からメールなどで情報提供してもらい、より密に連絡を取り合うようになっている。	職員は、担当窓口に出かけ、実績報告や申請等を行い、事業所の取り組みを伝えている。町や広域連合主催の勉強会や研修にも参加している。感染症の流行下においては、電話やメールを活用して、困難事例等について相談し、助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を作成し、身体拘束をしないケアを徹底している。利用者の個性やその日の状況を把握し気分転換を図ることで自由な暮らしを支援している。	事業所では、身体拘束廃止の指針を作成している。日ごろから身体拘束について話しあったり、定期的に勉強会の機会を設けたりして、意識の統一化を図っている。日ごろから、職員間で利用者の行動や思いについて話しあい、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やミーティングの際には、管理者が高齢者虐待防止法に関する事項や利用者の尊厳について話しており、周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はまだ、成年後見制度などの研修会に参加出来ていない。リモートで研修出来る環境を整え参加したいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料や重度化についての対応、医療連携体制などについて詳しく説明し同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情受付窓口を明示している。また、利用者との日常会話の中での意見や要望に耳を傾け、利用者の状況など家族の方に電話でお伝えする時には必ず意見がないか尋ねようとしている。	職員は、日ごろから利用者や家族等が意見や要望を伝えやすい関係づくりに努めている。感染症の流行下においては、アンケートでの嗜好調査や電話での意見抽出等の取り組みを行っている。出された意見は、職員間で話しあい、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見や要望を聞き話しやすい雰囲気でのコミュニケーションを図るようにしている。たま、個別で管理者と職員対話の時間を設け様々な意見を聞くようにしている。	管理者は、日ごろの支援や毎日のミーティングのなかで、職員の意見を聞く機会を設けている。個別に意見を聞く機会も設けている。感染予防について話しあい、備品を整備するなど、感染症の流行に伴う職員の不安を解消できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は全職員がいつでも閲覧できるようにしており、守られている。運営者が管理者であるため職員一人一人の業務内容や悩みを把握している。また、健康にも十分に留意を定期的に健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた資格取得を目標に常に向上心を持つように指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や老人福祉協議会に加入している。また、ケアマネ研修会を通じた交流や近隣グループホームと電話による情報交換など連絡の取りやすい関係を構築している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用についての相談があった時には、特別な事情がない限り、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況などの経緯についてゆっくりと聞くようにしている。話を聞きことで落ち着いて頂き、次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や家族の思い、状況等をお聞きし、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の知識や経験から学んだり、お互いに協働しながら生活できるような場面づくりをし、共に支え合う関係を導いている。洗濯たたみなど職員と共にすることが日課になって自然に行えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることにより、家族と職員の思いが少しずつ重なり合い、本人を支えていくための協力関係が築けことが多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナの影響により施設内への来訪や外出も規制やしているため直接会う機会がほとんどないが、馴染みの場所や人の話を日常の会話の中での話題に取り上げ懐かしんでもらっている。	事業所では、利用者の友人や知人の来訪を受け入れたり、町のサロンで馴染みの方と交流したりしている。感染症の流行下においては、家族等と安心・安全に面会できる工夫を行ったり、電話等でのやりとりを支援したりしている。また、受診の際に自宅近くをドライブするなどして、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日頃から利用者同士の関係性について情報交換を行い、全職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情によって日々変化することもあるため、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、本人や家族の方にお会いする機会にはお声かけするようにしており、困りごとなど相談があれば話を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃の利用者との関わりの中で本人の思いや意向を察知するように努めている。意向の把握が困難な場合は来訪時に聞き取りしていたが最近では面会規制しているため家族から電話があった時に聞いたりし情報を得ている。	職員は、日ごろの利用者とのかかわりのなかで、何気ない会話や表情・態度の変化から意向の把握に努めている。意向を抽出しやすいよう、一人の時にゆっくり話を聞く機会を設けている。家族等や知人からも生活歴等を聞き、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントで本人や家族などから聞き取っている。利用後も折に触れ、本人や家族にどんな生活をしてきたのかを聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解すると共に、表情や様々な行動から感じ取り本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者とも話し合いそれぞれの思いや意向を介護計画に反映している。モニタリングやカンファレンスも繰り返し行っている。職員は日頃から利用者との会話から希望をくみ取るよう努め介護計画に反映している。	事業所では、利用者や家族等の意見を聞き、希望の生活を実現するための介護計画を作成している。医師や看護師の意見を取り入れ、ニーズにそった快適な環境づくりについて関係者間で話しあっている。6か月に1回の見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じた見直しも行い、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な見直しや実施に併せて、利用者の状況の変化や家族の要望など、状況に合わせて随時、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に行い、利用者一人一人が満足して生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるように、警察や地域消防団、民生委員に対して協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。コロナ禍において訪問診療を希望される利用者家族が増え、要望に応え協力病院による訪問診療体制が整い、家族からは喜ばれている。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。感染症の流行下においては、複数の医療機関と連携し、定期的に訪問診療を受けることができる体制を整備している。夜間や緊急時にも連携を図り、適切な医療を受けることができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。職場内の看護職が受診に付き添い病院の看護職との提携体制はとれているまた、看護職員が不在の時は介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医師や病院内お地域連携室相談員と話しをする機会をもち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期支援のあり方については、利用開始時期の段階から事業所の出来る事を本人や家族に伝えている。また、利用者の状態に応じて、家族や医師等関係者で話し合い、方針を共有した上で支援に努めている。	入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、意向を確認している。医師等の関係者間で話しあい、対応方針の共有化を図り、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時などのマニュアルはあるが、定期的な訓練までは出来ていないが、通常の業務内で救急時の対応方法など看護師から指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者、地域の消防団員の協力を得て、避難訓練を実施している。	年2回、日中と夜間における火災を想定した避難訓練を実施している。職員が地域の消防団に加入し、訓練への参加や災害時の協力体制を整えている。非常時の必要品を検討し、備蓄品や小型発電機、ストーブ等を準備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の利用者との関わりの中で、一人一人の視点に立って常に人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なうことのないように支援している。ミーティングの際、全職員で話合っている。	職員は、利用者の尊厳とプライバシーの確保について、利用者の気持ちを考えることを大切に捉えている。日ごろから、誘導時の声かけや入浴介助、居室のドア等について職員間で確認しあい、全職員で利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行うようにしている。意思表示の困難な方には、表情から読み取るようにしている。また、日住生活の中で自己決定できる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の個性や特徴を大切にさりげなく寄り添い、きっかけを作ったり関心事を見つけ、一日一日をその人らしく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えは、利用者の本人の意向で決めており、職員は見守り支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定が難しい利用者には職員と一緒に考えて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内の畑で収穫した季節の野菜を献立に取り入れ、野菜の下処理など一緒に行うことで食事の大切な活動のひとつにしている。誕生日には本人の希望を聞き、季節や行事にあわせた手作りの献立を工夫している。	事業所では、利用者の希望を聞き、ユニットごとに献立を作成している。事業所の田畑で栽培した米や野菜、近隣からの差し入れを活用しつつ、調理している。利用者と職員がともに食卓を囲み、家庭的な雰囲気の中で食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録表に、食事摂取や水分摂取量を記入して把握している。栄養が不足している時は高カロリージュースなどで補給している。また、こまめな水分補給を実施し、夏場には夜間も水分補給を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行っている。職員は見守りを行い、利用者の能力に応じて一部介助している。また、協力歯科医による訪問歯科検診を行い状況に応じて治療や義歯の調整などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態を把握し、紙パンツやパットの利用も合わせ、全員トイレでの排泄を支援し、自立を促している。夜間も状態に応じたトイレ誘導を行うなど一人一人に応じた排泄支援に取り組んでいる。	職員は、排泄チェックシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中はさりげない声かけ等を心がけつつ、できる限りトイレでの排泄を支援している。排泄の自立を支援することで、意欲や身体機能の向上につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、室内歩行や体を動かす機会を適宜にとり、自然排便が出るように支援している。必要な方には主治医に相談の上下剤薬を使用し便意を防ぐように留意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の心身状態に応じて少なくとも週3日から4日は入浴することができるよう支援している。入浴介助の際は利用者と一緒にゆっくりと話し、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。	事業所では、少なくとも週3回は入浴ができるよう支援している。利用者一人ひとりの体調や希望にあわせて、時間帯や回数を変更したり、同姓介助等を行ったりしている。入浴を拒む利用者には、声かけや入浴の順番を工夫して、無理強いすることなく入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促進し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人一人の体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、ケース毎に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡ししたり、口の中まで服薬介助したりと状態に応じた服薬管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好や趣味を現在の状況とあわせ考慮し、個別に応じた楽しみや役割を見い出して支援できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナの影響もあり外出の機会が数少なく、お花見に公用車にて近隣にドライブに出掛けている。また天候の良い日には、利用者と職員でホーム庭や畑へ出かけ気分転換を図っている。	事業所では、家族等の協力を得て、利用者一人ひとりの希望に応じた外出支援を行っている。感染症の流行下においては、ドライブに出かけた際、季節の花や馴染みの場所を車内から眺めるなどして、安全面に配慮しつつ、外出している。また、事業所の畑に出かけて、野菜の世話をしたり、庭で日光浴を行ったりして、外気に触れる機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			Aユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金を預かり事業所側で管理している利用者でも、病院の受診や買い物時など本人に確認してもらえる利用者には確認してもらい、預かり金か支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年度はコロナの影響により面会規制している事から家族などと電話にて話し、家族との繋がりを感じ生活を送られている。また、携帯電話を持ち家族などと自由に連絡をとっている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、穏やかな光が差し込んでくる。床暖房も取り入れるなどして過ごしやすい環境設備が整っている。台所からは調理の準備をする音やにおいなど生活感を感じることができる。また、窓の外には田畑が見え、野菜の成長や季節の変化を感じることができる。	共用空間は、清潔で明るく、調理の音やかおりを感ずることができる。壁面には、利用者とともに作成した季節の作品を掲示している。ソファを設置し、利用者がくつろぐことができるよう工夫している。また、空気清浄機を設置したり、換気を行ったりして、感染予防にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下二カ所にソファを設置しており気の合った利用者同士が談話したり、一人でゆっくりと過ごすことができる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談した上で本人の馴染みのベッドや家具、使い寝れた日用品など持ち込んでもらっている。また、居室には家族写真など飾っている利用者もいる。	居室には、利用者の使い慣れた家具や調度品、家族の写真、作品等を持ち込んでもらっている。利用者の好みや状況に応じて、家具の配置を工夫し、安心・安全に過ごすことのできる居心地のいい居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の力を活かした安全な環境設備に努めている。心身の状況が変わり新たな混乱や失敗が生じた場合は、その都度全職員で話合っている。本人の不安を取り除くように努め、自信と力を取り戻せるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に全職員で理念を唱和している。また、ミーティングや申し送り時には必ず理念に触れ、確認し合うようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	事業所としては町内会に加入しているが、今年度はコロナ感染の観点から地域行事には参加できていない。管理者は消防団に所属し地域の情報や協力は得やすく、地域の方からの野菜のお裾分けなどのなじみの関係は築けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度は町内会の方を招き認知症サポーター養成講座を開催するなどしたが、今年度は開催できなかった。コロナが終息したら地域で開催しているサロン等に積極的に参加したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染の観点により昨年1月開催以降開催できていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染対策等町の担当者からメールなどで情報提供してもらい、より密に連絡を取り合うようになっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を作成し、身体拘束をしないケアを徹底している。利用者の個性やその日の状況を把握し気分転換を図ることで自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼やミーティングの際には、管理者が高齢者虐待防止法に関する事項や利用者の尊厳について話しており、周知徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はまだ、成年後見制度などの研修会に参加出来ていない。リモートで研修出来る環境を整え参加したいと思っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料や重度化についての対応、医療連携体制などについて詳しく説明し同意を得るようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情受付窓口を明示している。また、利用者との日常会話の中での意見や要望に耳を傾け、利用者の状況など家族の方に電話でお伝えする時には必ず意見がないか尋ねようとしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見や要望を聞き話しやすい雰囲気でのコミュニケーションを図るようにしている。たま、個別で管理者とn職員対話の時間を設け様々な意見を聞くようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は全職員がいつでも閲覧できるようにしており、守られている。運営者が管理者であるため職員一人一人の業務内容や悩みを把握している。また、健康にも十分に留意を定期的に健康診断を行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた資格取得を目標に常に向上心を持つように指導している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や老人福祉協議会に加入している。また、ケアマネ研修会を通じての交流や近隣グループホームと電話による情報交換など連絡の取りやすい関係を構築している。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用についての相談があった時には、特別な事情がない限り、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況などの経緯についてゆっくりと聞くようにしている。話を聞きことで落ち着いて頂き、次の段階の相談に繋げている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、本人や家族の思い、状況等をお聞きし、改善に向けた支援の提案や相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の知識や経験から学んだり、お互いに協働しながら生活できるような場面づくりをし、共に支え合う関係を導いている。洗濯たたみなど職員と共に行うことが日課になって自然に行えている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることにより、家族と職員の思いが少しずつ重なり合い、本人を支えていくための協力関係が築けことが多くなっている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナの影響により施設内への来訪や外出も規制やしているため直接会う機会がほとんどないが、馴染みの場所や人の話を日常の会話の中での話題に取り上げ懐かしんでもらっている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日頃から利用者同士の関係性について情報交換を行い、全職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情によって日々変化することもあるため、注意深く見守るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も、本人や家族の方にお会いする機会にはお声かけするようにしており、困りごとなど相談があれば話を聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃の利用者との関わりの中で本人の思いや意向を察知するように努めている。意向の把握が困難な場合は来訪時に聞き取りしていたが最近では面会規制しているため家族から電話があった時に聞いたりし情報を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントで本人や家族などから聞き取っている。利用後も折に触れ、本人や家族にどんな生活をしていたのかを聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを理解すると共に、表情や様々な行動から感じ取り本人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者とも話し合いそれぞれの思いや意向を介護計画に反映している。モニタリングやカンファレンスも繰り返し行っている。職員は日頃から利用者との会話から希望をくみ取るよう努め介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的な見直しや実施に併せて、利用者の状況の変化や家族の要望など、状況に合わせて随時、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に行い、利用者一人一人が満足して生活できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Bユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けられるように、警察や地域消防団、民生委員に対して協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。コロナ禍において訪問診療を希望される利用者家族が増え、要望に応え協力病院による訪問診療体制が整い、家族からは喜ばれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。職場内の看護職が受診に付き添い病院の看護職との提携体制はとれているまた、看護職員が不在の時は介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医師や病院内お地域連携室相談員と話しをする機会をもち、事業所内での対応可能な段階で、なるべく早く退院できるようにアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期支援のあり方については、利用開始時期の段階から事業所の出来る事を本人や家族に伝えている。また、利用者の状態に応じて、家族や医師等関係者で話し合い、方針を共有した上で支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時などのマニュアルはあるが、定期的な訓練までは出来ていないが、通常の業務内で救急時の対応方法など看護師から指導してもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者、地域の消防団員の協力を得て、避難訓練を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の利用者との関わりの中で、一人一人の視点に立って常に人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なうことのないように支援している。ミーティングの際、全職員で話合っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行うようになっている。意思表示の困難な方には、表情から読み取るようにしている。また、日住生活の中で自己決定できる場面をつくっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の個性や特徴を大切にさりげなく寄り添い、きっかけを作ったり関心事を見つけ、一日一日をその人らしく過ごせるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の着替えは、利用者の本人の意向で決めており、職員は見守り支援が必要な時に手伝うようにしている。自己決定が難しい利用者には職員が一緒になって考え支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内の畑で収穫した季節の野菜を献立に取り入れ、野菜の下処理など一緒に行うことで食事の大切な活動のひとつにしている。誕生日には本人の希望を聞き、季節や行事にあわせた手作りの献立を工夫している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の記録表に、食事摂取や水分摂取量を記入して把握している。栄養が不足している時は高カロリージュースなどで補給したり、医師の指示の下、訪問看護等による点滴を行ったりしている。また、こまめな水分補給を実施し、夏場には夜間も水分補給を実施している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行っている。職員は見守りを行い、利用者の能力に応じて一部介助している。また、協力歯科医による訪問歯科検診を行い状況に応じて治療や義歯の調整などを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に状態を把握し、紙パンツやパットの利用も合わせできるだけトイレでの排泄を援助している。夜間は安全面にも考慮しトイレ誘導や居室室内ポータブル使用、オムツ交換など個々に応じた排泄ケアを行っている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、室内歩行や体を動かす機会を適宜にとり、自然排便が出るように支援している。必要な方には主治医に相談の上下剤薬を使用し便意を防ぐように留意している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の心身状態に応じて少なくとも週3日から4日は入浴することができるよう支援している。入浴介助の際は利用者と一対一でゆっくりと話し、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促進し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人一人の体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくりと休息がとれるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、ケース毎に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡ししたり、口の中まで服薬介助したりと状態に応じた服薬管理をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の嗜好や趣味を現在の状況とあわせ考慮し、個別に応じた楽しみや役割を見出し支援できるように努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナの影響もあり外出の機会が数少なく、お花見に公用車にて近隣にドライブに出掛けている。また天候の良い日には、利用者と職員でホーム庭や畑へ出かけ気分転換を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	Bユニット	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		家族よりお金を預かり事業所側で管理している利用者でも、病院の受診や買い物時など本人に確認してもらえる利用者には確認してもらい、預かり金が支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		今年度はコロナの影響により面会規制していることから、家族と電話にて話し、家族との繋がりを感じ生活を送っている。電話はコードレスのため居室でゆっくりと話す話す事ができプライバシーにも配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		共有空間には、穏やかな光が差し込んでくる。床暖房も取り入れるなどして過ごしやすい環境設備が整っている。台所からは調理の準備をする音やにおいなど生活感を感じることができる。また、窓の外には田畑が見え、野菜の成長や季節の変化を感じることができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		リビングと廊下にそれぞれソファを設置しており、リビングでは日向ぼっこしたり、利用者同士が談話したり、一人ゆったりと過ごしたりできる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		利用者や家族と相談した上で本人の馴染みのベッドや家具、使い寝れた日用品など持ち込んでもらっている。また、居室には家族写真など飾っている利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		利用者一人一人の力を活かした安全な環境設備に努めている。心身の状況が変わり新たな混乱や失敗が生じた場合は、その都度全職員で話合っている。本人の不安を取り除くように努め、自信と力を取り戻せるように支援している。		